

## ギリシア古代都市メッセネおよびフィガリアの 建築と都市環境に関する学際的研究

Interdisciplinary Research on Architecture and  
Urban Environment of Ancient Greek Cities of  
Messene and Phigalia

伊藤 重剛 (ITO JUKO)

熊本大学・大学院自然科学研究科・教授



### 研究の概要

メッセネとフィガリアは、ギリシアのペロポネソス半島にある古代都市である。本研究では、メッセネの古代劇場の実測調査を行ない、その建築的復元を行なう。またフィガリアは未発掘の遺跡であり、本研究により地形測量や地中探査などの事前調査を行ない、それに基づいて最終的には発掘調査を行ない、ギリシア古代都市を明らかにする。

研究分野：建築史，都市史，考古学，美術史

科研費の分科・細目：建築史・意匠

キーワード：古代都市，ギリシア，フィガリア，メッセネ，劇場

### 1. 研究開始当初の背景

地中海に誕生したギリシア・ローマの西洋古代文明は近代文明の源流である。熊本大学の調査隊は、1993年以來18年間、古代都市メッセネでギリシアの考古学者と共同で建築調査を行ってきた。

### 2. 研究の目的

本研究ではメッセネとフィガリアの調査を通じて、古代の都市と建築の様相を明らかにすることである。具体的には、メッセネで劇場遺構の建築調査を行ない、

メッセネでは近年発掘された古代劇場の実測調査を行なう。特に舞台建物について、得られた資料に基づいて復元を行ない、文献研究とあわせ建築史的研究を行なう。

フィガリアはまだほとんど未発掘の都市遺跡なので、まず地形測量をして地形図を作成することから始める。特に都市全体を囲む城壁は、都市の基本施設として重要で、その位置と形状を実測する。さらに将来の発掘調査を見越して、地中探査を行なう。

### 3. 研究の方法

調査は全てGPS、電気探査、レーザー探査など工学的機器を用いたり、あるいは建築部材については手測りによる実測調査であり、これをもとに得たデータによる実証的研究を行なう。したがって、記録の作成がまず基本的な作業となる。

### 4. これまでの成果

#### 1) メッセネ

ヘレニズム時代からローマ時代まで使用された劇場(図2)について、特に舞台建物を中心に実測調査を行なった。基本図面として建築遺構の平面図、立面図、断面図、また出土部材の図面作成を行なった。同様に、建築遺構及び出土部材の写真撮影と文章による記述を行なった。

これらの図面資料および得られた寸法データを分析し、舞台及び舞台背景建物の復元を行なった。その結果、舞台背景建物は、コリント式、イオニア式、ロータス・アーカサス式の3つの様式で作られており、2階建てであったことが推測される。

座席については殆どが破壊されており残っておらず、バラバラになって出土した座席部材から、推定復元するほかないかと思われ、現在検討中である。

#### 2) フィガリア

これまでほとんど調査されていない古代都市であるため、まず地形図作成から行なっている。市域は全長約4.5kmの城壁に囲まれており、半分以上はまだ地上に露出した形で残っている。その殆どを踏査して、地図上にその位置と形状を記録し、地図上に表した。また軍の測量部が発行している地形図を参照して、等高線を入れ、これまでに調査されている古代の泉や神殿の位置を、記入して地

図を作成した。南西側の城壁（図3）については、2010年夏に、その石積みの技法を解明するために、約80mに亘って写真測量を行なった。これによって、城壁の立面図を作成することができ、他の都市の城壁の石積み技法と比較研究することができる。

2010年夏には、将来の発掘調査のために古代都市のほぼ中心で、広場と推定される箇所、レーザー探査及び電気探査を行なった。その結果、地下約1.2mの深さに、おそらく古代の地表面らしい面を確認し、その面上に多くの石材らしい物体の反応を確認することができた。この結果は、将来発掘するときの地点を発掘すべきかについて、大きな示唆を与えるものとなった。

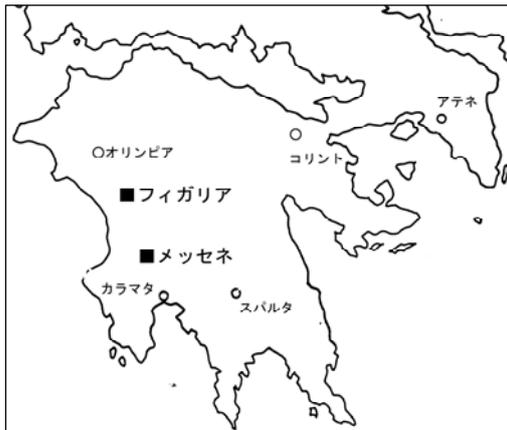


図1 メッセネとフィガリアの位置



図2 メッセネの劇場



図3 フィガリアの城壁

## 5. 今後の計画

メッセネでは、劇場の未調査部分について、建築遺構の実測を行ない、また他の円形劇場の報告書を調べ、比較研究を行なう。フィガリアについては、城壁を含む地形測量の継続、いくつか残る建築遺構の実測調査による建築研究を行なう予定である。

## 6. これまでの発表論文等（受賞等も含む）

2008年度

林田義伸, 伊藤重剛 古代ギリシア都市メッセネにおけるアスクレピオス神域の設計法に関する研究, 日本建築学会計画系論文集 第74巻 第636号 2009年2月 479-486、他8編

2009年度

吉武隆一, 伊藤重剛  
地中海古代都市の研究(133):メッセネにおける劇場調査報告2010(1):スカエナエ・フロンスの柱頭, 日本建築学会九州支部研究報告 第50号・3 2011年3月 pp.637-640 他7編

2010年度

伊藤重剛, 吉武隆一 『地中海古代都市の研究(127) フィガリアの城壁と建築遺構の一般調査2009』, 日本建築学会九州支部研究報告 第49号・3 (計画系), pp.581-584 他5編

シンポジウム報告書

伊藤重剛編 「メッセネ・フィガリア国際共同調査シンポジウム『ギリシア古代都市を彫る』」熊本大学ギリシア古代建築調査団、(2010年12月4日、京都リサーチパーク・サイエンスホールにて開催)

新聞

伊藤重剛, 「盛衰語るギリシア建築 現地調査で遺構復元、美の原理探る」日本経済新聞 2010年10月29日

ホームページ

[http://www.arch.kumamoto-u.ac.jp/itoj\\_lab/index.html](http://www.arch.kumamoto-u.ac.jp/itoj_lab/index.html) (研究室ホームページ)

パンフレット

「MESSENE」2010年3月31日作成

DVD

「蘇る！ギリシア古代都市メッセネ—熊本大学伊藤研究室の挑戦」2010年3月31日作成